「金融商品取引業者近畿財務局長(金商)第26号:加入協会…日本証券業協会

魁力屋 (コード 5891)

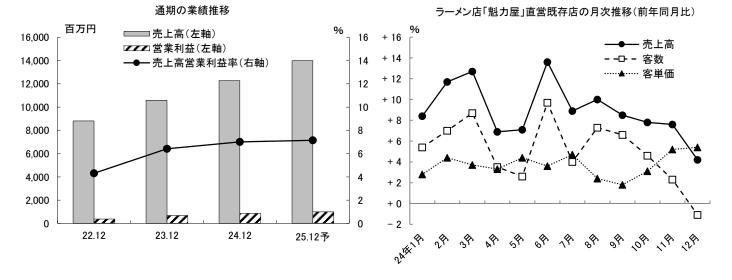
◆通期業績推移(単体)(25.12 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純塩	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金の現金で
22.12	8,815	380	73.2	0.0	1,048	▲ 463	▲80	2,081
23.12	10,583	679	89.0	15.0	622	▲ 359	1,241	3,585
24.12	12,272	860	96.6	予18.0	943	▲ 739	▲ 319	3,469
25.12子	14,000	1,000	110.0	23.0			_	_

◆各決算期の中間期業績推移(単体) (25.12 予は会社側非開示のため表記しない)

決算期	売上高	営業利益	1株純塩	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金戸野物
23.12	5,028	372	_	_	_	_	_	_
24.12	5,866	417	45.2	0.0	505	▲294	▲ 188	3,607

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



24 年 12 月期の業績概況…24 年 12 月期は、ラーメン店「魁力屋」の直営既存店売上が前年比8.9%増となったことに加え、23 年 12 月期の第 3 四半期(23 年 7~9 月)以降の新規出店などにより、売上高は前年比で 16%、営業利益は約 27%それぞれ増加した。1 株当たりの年間配当金は 18 円(23 年 12 月期比 3 円増)の予定。

当期の業績は、売上高 122 億 7,200 万円(23 年 12 月期比 16.0%増)、営業利益 8 億 6,000 万円(同 26.6%増)、経常利益 8 億 8,000 万円(同 29.0%増)、当期純利益 5 億 3,500 万円(同 37.2%増)となり、売上高営業利益率も 7.0%(前年同期は 6.4%)に上昇した。

主力事業であるラーメン店「魁力屋」の直営既存店において、今期に入ってからの売上高、客数及び客単価の月次動向では、客単価はおおむね堅調な伸びを見せている。客数については3月までは月を追うごとに伸び率が拡大。4月と5月は伸び率が落ち着いたものの、創業月で月初に感謝祭を実施した6月は来店客全員へのラーメン無料券配布が月終わりまでの駆け込み需要を呼び込んだこともあって再び伸び率が上昇。コメなどの食材価格の高騰を受けて11月に各種定食及びご飯について販売価格の改定を実施したことで、年末にかけては客単価の伸び率が上昇した一方、客数では落ち込みがみられたが、期を通じては客単価(3.7%増)、客数(5.0%増)とも23年12月期に比べて増加した。

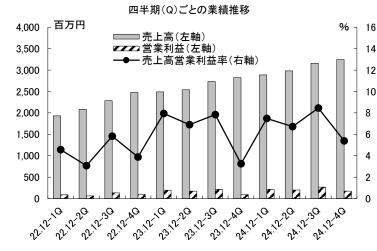
当期中の新規出店は 18 店 (うち、直営 10 店、FC 加盟店等 8 店)、閉店は 2 店で、当期末のラーメン店「魁力屋」は 151 店 (うち直営 112 店、FC 加盟店等 39 店)、中食事業等 10 店の合

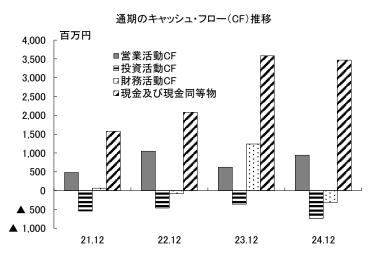
計 161 店となり、23 年 12 月期末からは 16 店増となった。

また、22年12月期からの業績を四半期(3カ月)ごとにみると、売上高においては前年同期

比及び直前四半期比ともに増加を継続。営業利益については、凹凸はあるものの前年同期 比では23年3月期の第3四半期(23年7~9 月)までは増益を続け、売上高営業利益率についてもほぼ右肩上がりで向上してきた。23年12月期の第4四半期については、株式上場費用に加え、店舗オペレーションの改革プロジェクトによる改装費用(10店でテスト的に厨房を改装)が発生したことなどから、前年同期比で約4%の減益となったが、今期に入っては各四半期とも増益が続いた。

キャッシュ・フロー(以下、CF)の状況について、当期末現在の現金及び現金同等物の残高は34億6,900万円(23年12月期末比3.2%減)となった。営業活動によるCFは、税引前当期純利益8億4,000万円(23年12月期比23.5%増)、減価償却費2億4,400万円(同34.8%増)、売上債権の増加額1億6,900万円(同69.0%増)、仕入債務の増加額4,100万円(同60.6%減)、未払金の増加額1億2,800万円(同1,063.6%増)、法人税等の支払額2億6,200万円(同0.4%減)などにより、9億4,300万円の収入(同51.6%増)となった。投資活動によるCFは、有形固定資産の取得による支出4億9,600万円(同29.8%増)、





子会社株式の取得による支出 2 億 900 万円 (23 年 12 月期は無し)などにより、7 億 3,900 万円 の支出 (23 年 12 月期比 105.8%増)に。財務活動による CF は、長短借入金の借入れ及び返済による差引支出額 3 億 600 万円 (23 年 12 月期は長期借入金の借入れ及び返済による差引支出額 2 億 9,600 万円)のほか、23 年 12 月期にあった株式の発行による収入 15 億 4,500 万円が当期は無かったことなどにより、3 億 1,900 万円の支出(同 12 億 4,100 万円の収入)となった。

なお、24年11月には台湾に子会社を設立し、海外初出店に向けて準備を始めている。

25 年 12 月期の業績見通し…25 年 12 月期のについては、売上高 140 億円 (前期比 14.1%増)、営業利益 10 億円 (同 16.2%増)、経常利益 10 億円 (同 13.6%増)、当期純利益 6 億 2,000 万円 (同 15.8%増) の見通しで、1 株当たりの年間配当金は 23 円の予定。

ラーメン店「魁力屋」の直営既存店売上は前期比 5.0%増を見込んでおり、国内 24 店(直営店 12 店、FC 加盟店等 12 店)の新規出店を計画。期末の店舗数は合計 185 店となる見込み。

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の 参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありま せん。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変 動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいま すようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全 性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は 西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複 製、転送することを禁じます。